



高尾山薬王院

# 日本の源流 再発見

File 36 東京都八王子市

桑都ストーリーの歴史をたどり、高尾山を探訪

2020年6月19日、八王子市の「<sup>まんざん</sup>霊気満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が東京都で初めて日本遺産に認定されました。認定されたストーリーは、江戸時代に発展した織物産業の歴史や、高尾山信仰など29件の有形・無形の文化財から構成されています。



## 東京の日本遺産、八王子の歴史・文化に触れる

絹産業を基盤にして「桑都」としてにぎわい、発展した八王子。その礎は小田原に本拠を置いていた北条氏の名将・北条氏照がこの地に居城を築いたことに遡ります。「関東屈指の山城」といわれる八王子城は1582年ごろに築城が始まりました。しかし天下統一をめざす豊臣秀吉の関東制圧の一環で、1590年に前田利家・上杉景勝軍に攻められ落城。氏照が描いていた壮大な城郭の構想は、未完成で終わったと考えられています。

標高約599mの高尾山は、古くから人々に<sup>あが</sup>霊山として崇められ、氏照も<sup>あつ</sup>篤く信仰しました。ケーブルカーやリフトの利用で初心者から山歩きが楽しめるため、年間を通して多

くの登山者が訪れています。ケーブルカー高尾山駅を降り、1号路(表参道コース)を進むと、八王子市指定天然記念物のたこ杉を通り過ぎ、見えてくるのが高尾山薬王院浄心門。門(鳥居)をくぐると赤い灯笼が左右に整然と並び、樹齢700年以上の天狗の腰掛杉とともに<sup>りん</sup>辺りは凛とした神聖な空気に包まれます。

高尾山の山腹に位置する高尾山薬王院有喜寺は、1200年以上前に聖武天皇の勅令を受けた高僧行基<sup>ぎょうき</sup>により開山。薬王院は、不動明王の化身飯繩大権現<sup>いづな だいこんげん</sup>が本尊です。江戸時代には絹産業に携わる多くの人々のご利益を求め、高尾山を参拝しました。



### ▲ TAKAO 599 MUSEUM

高尾山の自然をテーマに動物や植物、昆虫、きのこが展示され、剥製が並べられた後の壁面に映像を投影する、プロジェクションマッピングが好評です

### ▼ 八王子城跡(御主殿虎口)

御主殿への出入り口となる「虎口」。25段の階段があり、2か所の踊り場とともに全面に石が敷かれているのは、八王子城独特のものといわれています



### ▼ 高尾山の杉並木(天狗の腰掛杉)

杉並木の参道に堂々とたたずむ「天狗の腰掛杉」。守り神とされる天狗がこの木に腰掛け、参拝客を見守っていると語り継がれています



### ▲ 絹の道資料館

1987年からの発掘調査、石垣の修復を経て1990年に開館しました。エントランスには「絹の道」を散策する人のための休憩コーナーがあります



2015年、高尾山のふもとに開館したTAKAO 599 MUSEUMは、高尾山を訪れる人々のコミュニケーションの場として、高尾山の自然・歴史・文化の魅力を伝えています。開放的な599カフェが併設され、登山者などの休息スポットにもなっています。

1859年の横浜港の開港後、八王子から海外への輸出用の生糸を運んだ道が「絹の道」です。当時は、大量の生糸を荷車や牛馬などによって運んでいたため、現在もお椀のようわんにくぼんだ道が続いている場所があります。絹の道資料館は、当時の生糸商人やぎした ようえもん・八木下要右衛門の屋敷跡に建てられました。絹の道や養蚕に関する資料と写真が展示され、往時の痕跡を残す石垣の一部などが現存しています。

八王子城から始まり、桑都の歴史のなかで育まれてきた伝統文化は、高尾山とともに今もこの地で息づいています。

ココに注目



多くの天狗伝説が残る高尾山の名物「天狗焼」。カリッと香ばしく焼き上げた皮と、程よい甘さの黒豆あんとのハーモニーがクセになるおいしさ。つぶらな瞳の愛らしい天狗の表情も人気の理由です。

### 日立グループ事業所紹介

今回訪れた東京都八王子市には株式会社 関東日立 多摩サービスセンターがあります。日立製作所および日立グループの商品を扱う総合商社として、生産現場に必要なハードウェアから、制御に必要なソフトウェアまでトータルに提供しています。

#### 株式会社 関東日立 多摩サービスセンター

東京都八王子市千人町3-15-5

<http://www.hitachi-hansya.jp/kanto-hitachi/index.html>